



1996 ~ 1997 年度

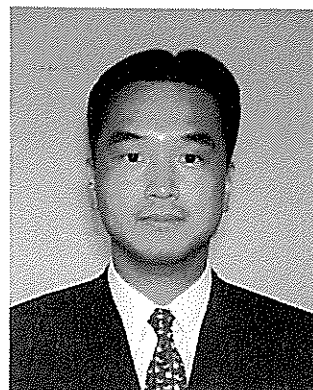
国際ロータリー第2660地区ローターアクト
海外物資支援活動報告書

“タイ国東北部の子供達へ
そろばんを贈ろう”



ごあいさつ

1996～1997年度 国際ロータリー第2660地区ローターアクト
地区代表 湯木尚二



子供たちに生きるチャンスを！
悲しみや恐れのない世界に！
愛と希望と平和に満ちあふれた世界に生きる喜びを！

ご縁あって国際ロータリー第2660地区ローターアクト地区代表として活動させて頂いた昨年度、ロータリー精神を体得することにより、今、私たちにできることを模索していました。

数ある社会参加や支援の中で、私たちは、タイ国東北部ロイエット県の子供たちの計算能力向上のために普及しつつあるそろばん教育活動に関心をもち、その中で今必要とされている四ツ玉そろばんを寄贈するプロジェクトに着手しました。

国際ロータリー第2660地区内、全ロータリークラブ・全ローターアクトクラブ・全インターアクトクラブに不要そろばんの提供を呼びかけたり又、毎日新聞社の記事におとりあげ頂いたおかげで、2月半ば迄に総計1500丁ものそろばんが集まりました。それと同時に、たくさんの激励文や温かいお言葉を頂き、多くの方々の厚い心に分れることができました。

集まった1500丁の内、持ち運び可能であった100丁と残りを現地教育委員会への目録にまとめ、2月18日、皆様からお預かりした真心を届けに一路タイ国へ向かいました。

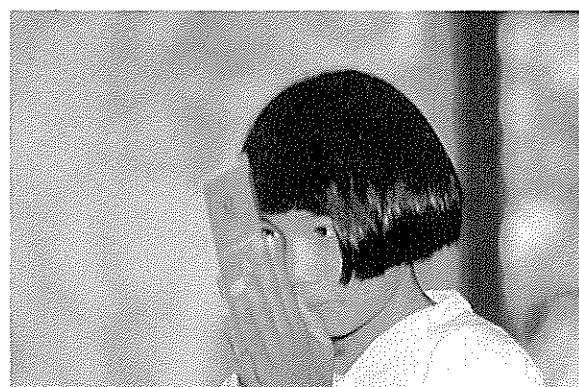
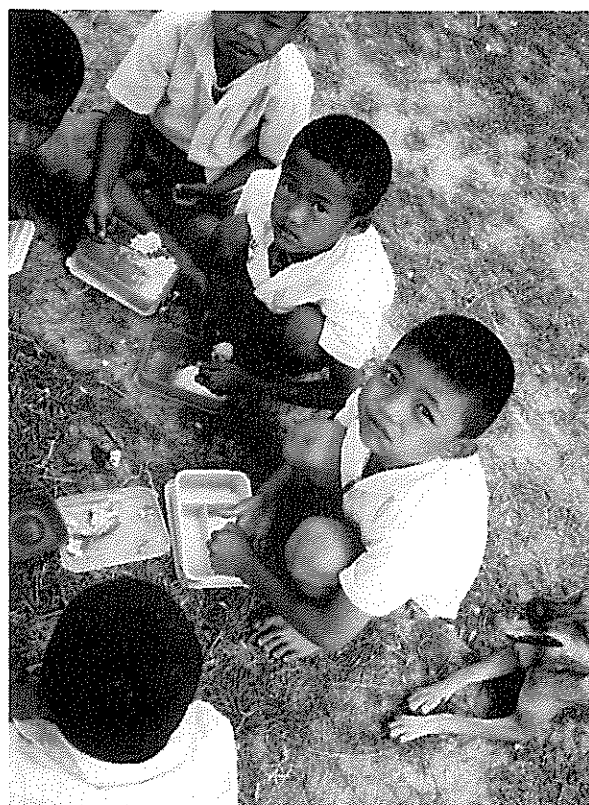
ロイエット県は タイ国でも貧しい地域のひとつです。そこで出会った子供たちとのふれあいの中で、私たちに向けられた姿勢や目線に彼らの真摯さ、誠意を深く感じました。お金では買えない最高の手作りのもてなしに私たちは強く胸をうたれました。

そろばんを届けるということから、人とのふれあい、心と心のふれあい、つまり私たちの心が彼らの心と1つに合わさったことを体全体で感じました。ロータリー活動の原点“愛”喜びを分かち合うということを実感したのです。

最後になりましたが、今回のプロジェクト実施にあたり物心両面で多方面からご協力、バックアップいただきました。諸団体、各種法人、一般・個人の皆様方、国際ロータリー第2660地区内の各団体・会員の皆様方、そして私たちに素直なハートをプレゼントして下さったタイ国東北部ロイエット県の皆様方に心から厚く御礼を申し上げます。

ありがとうございました。

コープクン クラブ



これまでの経緯について

1996年11月中旬、国際ロータリー第2660地区ローターアクト地区代表の湯木尚二が、ロータリーの友10月号に掲載されていた記事（タイ国東北部の子ども達の計算能力向上の為に普及しているそろばん教育活動。しかし肝心のそろばんが足りない）に関心をもち、検討した後、12月中旬ローターアクト地区役員会の席上にて提案、その場で承認を得、正式に1996～97年度国際ロータリー第2660地区ローターアクト海外物資支援活動として動き出しました。

計算機・コンピューター社会の今、オフィスや一般の家庭には、捨てるにも捨てきれないそろばんが宝の持ち腐れになって机の中で眠っているのでは？という発想のもと多方面への呼びかけがスタートしました。

国際ロータリー第2660地区、全ロータリークラブ、全ローターアクトクラブ、全インターアクトクラブをはじめとして、湯木がとびこみで毎日新聞社にアピールしたところ、大変関心を持っていただき、1月18日・2月22日の夕刊に掲載、爆発的な反響を呼び、1ヶ月半の間に、予想をはるかに上回る総計1500丁ものそろばんが寄せられました。これらのそろばんの内、持ち運び可能な100丁をタイ国東北部ロイエット県にあるポトン・ウィタヤカーン校へ、残りのそろばんは目録にまとめ、タイ国東北部ロイエット県教育委員会へとそれぞれ訪問し、直接手渡し、現地の人々と触れあって参りました。これは、1996～97年度国際ロータリー会長ルイス・ビセンテ・ジアイ氏の唱えられている行動の3H（HEADS、HANDS、HEARTS）に湯木が感銘を受け提案、実行することになりました。まず頭で考え知恵をしまし、次はそれに向かって実際に手を差し伸ばしアクションをおこし、そしてその行動の中には、常に温かい心がこもっておかねばならないというロータリー精神の真髄にです。

一行は2月18日夕刻に出発し、20日に現地の学校、教育委員会を訪問、22日夕刻帰国致しました。20日の行程は、日本民際交流センターを通じてタイのE・D・Fが手配していただきました。

渡航中は常に国際ロータリー第2660地区ローターアクトの代表として責任ある行動でもって活動することを念頭にかかげ友愛の輪を広げて参りました。

尚、目録贈呈致しました別送分は、4月3日に発送完了、5月16日にタイ国東北部ロイエット県教育委員会より受領書を拝受致しました。

又、今回の活動に対し、国際ロータリー第2660地区・地区大会において中川章三ガバナーより海外支援活動賞が、湯木へおくりされました。



「タイの子供たちにそろばんを」と呼びかける湯木代表

タイに広げ「ご名算！」

大阪の社会奉仕団体 中古品を募集中
教育支援にそろばんを

「家庭で眠っているそろばんはありませんか？」—大阪府北部の社会奉仕団体が、タイで普及し始めたそろばん教育の一助にと、中古のそろばんを集めている。そろばんは自分たちで現地に運び、学校などに手渡す予定。同国では、計算が苦手なために、高金利の借金をしたり、原価割れで商品を買ったりする例が後を絶たないといい、単なる教育支援ではなく生活支援にもつながる運動として注目される。【岩崎日出雄】

実業家や専門職中心の奉仕団体、ロータリークラブの関連団体で、会員が18～30歳の「国際ロータリー第2660地区ローターアクト」(大阪市・八尾市以北の府内管轄、約350人)が企画。献血やチャリティーバザー、ゴミ拾いなどを続けているが、「従来の枠を超えた新しい取り組みを」と、今月、そろばん事業を始めた。

地区代表の湯木尚二さん(27)＝料理店「船場吉兆」心斎橋店店主＝が雑誌でタイのそろばん事情を知ったのがきっかけ。タイの子供たちに奨学金を支給しているNGO、日本民際交流センター(東京)などによると、そろばんの名産地、島根県仁多郡横田町が同国東北部にそろばん指導者を派遣したことなどがもとで、一昨年ごろからそろばん教育が普及し始め、現在、73中学校の約4000人が授業でそろばんを学んでいるという。

同センターも現地へのそろばん郵送を呼びかける運動を続けており、すでに1万丁以上が送られたが、そろばん教育が広がり続けているので、指導者や生徒用にもっと必要だという。

会員が職場や知人に呼びかけるなどして来月15日まで集め、湯木さんら5人が、同月下旬、自費で渡航して現地の中学校や教育委員会を訪問する。湯木さんは「手渡しの方が気持ちが一層通じるし、そろばんを提供して下さった方々に現地の様子も報告したい」という。海外への支援物資を直接運ぶ例は珍しい。

募集するそろばんは23～27けたのものと教師用の大型そろばん。提供や入会の問い合わせは湯木さん(電話 06・258・3700 = 吉兆)まで。

毎日新聞 平成9年1月18日

願ひましては…1300丁なり

大阪の社会奉仕団体 反響に感激
タイへ贈る中古そろばん「思いやドラマも手渡したい」

タイで普及し始めたそろばん教育を支援しようと、大阪府北部の社会奉仕団体が中古のそろばんを募集したところ、1カ月半で約1300丁が集まった。団体側は予想をはるかに超える反響にびっくり。多数の激励文も添えられ、「多くの方々の人情に触れた」と感動している。そろばんは今月20日、現地の中学校に直接手渡された。

【岩崎日出雄】

実業家や専門職中心の奉仕団体、ロータリー・クラブの関連団体で、会員が18～30歳の「国際ロータリー第2660地区ローターアクト」(約350人)が企画。タイの子供たちに奨学金を支給しているNGO、日本民際交流センター(東京)によると、同国では、一昨年ごろからそろばん教育が普及し始め、現在、73中学校の約4000人が授業でそろばんを学習。同国では、計算が苦手なため、高金利の借金をしたり、原価割れで商品を買ったりする例が後を絶たず、そろばん教育が広がっているという。

同ローターアクトの湯木尚二・地区代表(27)が雑誌でこのことを知ったのを契機に事業着手し、先月18日の毎日新聞で紹介されたほか、会員が職場や知人に呼び掛けた。200～300丁を予想していたが、思いのほか反響が大きく、今月15日までに、団体事務局に170件、約1300丁が寄せられた。

内訳は、個人が105人(約400丁)、法人や団体が15件(約300丁)、ロータリークラブなど関連団体が53団体(約600丁)。住之江競艇場労組や大阪珠算協会の各80丁など大口の提供もあった。また、「私と一緒に長年働いてくれたそろばんです」とか、「算数嫌いだった子供が頑張ってそろばんを習い検定に受かった、思い出のそろばんです。もう一度人の役に立てれば……」といった手紙も約40通添えられていた。

湯木さんら団体関係者5人は、今月18日から一部自費負担で渡航し、タイ東北部ロイエット県の教育委員会や中学校を訪問。持ち運び可能な100丁を中学校に直接手渡し、残りは目録で県教委に贈呈(後に郵送)するという。湯木さんは「一つ一つのそろばんにドラマや思いが詰まっている。提供者の真心もしっかり手渡したい」と話している。



「タイの子供たちにそろばんを」と1個1個磨きあげ、贈る準備に追われる人たち

＝大阪市中央区で

毎日新聞 平成9年2月22日

皆様からの善意の心
～回収場面～



皆様から寄せられたそろばんを1つ1つ空拭きし梱包作業



その他・学用品（エンピツ・チョーク等）も多数寄せられました。

いざ渡航



皆様からの善意の気持ちをあずかりいよいよ出発

渡航者名

国際ロータリー第2660地区ローターアクト

- 地区代表 湯木尚二（大阪 RAC）
- 地区幹事 池田一暁（東大阪東 RAC）

川崎美樹子（大阪 RAC）

細尾知加（ ）

国際ロータリー第2660地区

- ローターアクト委員長 小西眞明（寝屋川 RC）

感動のそろばん寄贈
～心と心の触れあい～



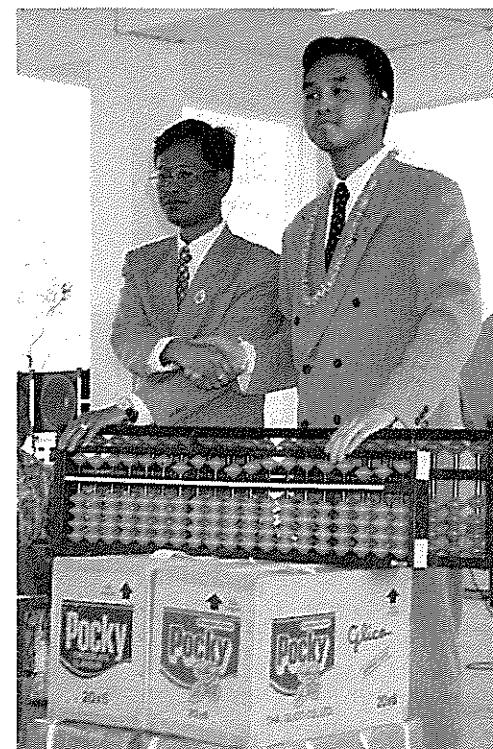
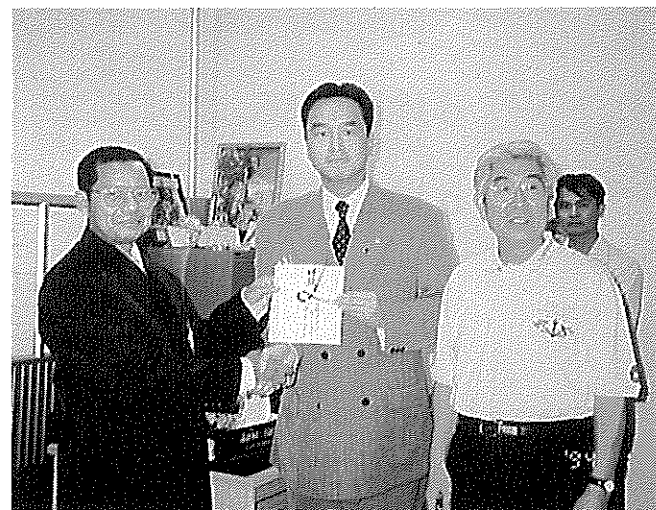
感動!! 手作りの歓迎看板ポトン・ウィタヤカーン校にて



全校生徒のお出迎え



タイ国ロイエット県教育委員会を訪問 教育委員長に目録の贈呈



そろばん贈呈、校長先生と固い握手



そろばんを手に喜ぶ子供達

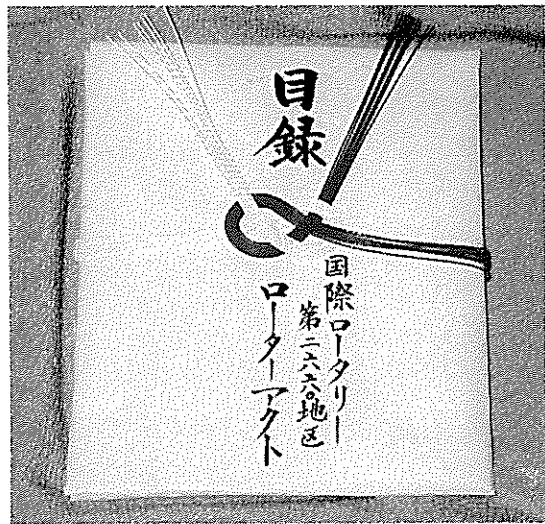


そろばん授業に熱中する子供達



先生方と記念写真

別送便 目録と受取書



A LIST OF ARTICLES

ROI-ET
General Education Office February 20th. 1997

On behalf of the Rotaract of Rotary International District 2660 in Japan, we are honored to contribute 1,300 pieces of abacuses to ROI-ET General Education Office on this day Feb. 20th. 1997.

SHOJI YUKI
Rotaract Representative
D2660. Rotary International



No.0862/2038

Roi-Et General Education Office
RatchakarnDamneon Road,
Roi-Et Thailand 45000

May 16, 1997

Dear Sir/Madam

Thank you for your donated 1,470 Japanese abacus for Thai students in rural area. Since EDF Thailand and Minsai Center in Japan have created the Japanese abacus training, this could really help them not only in mathematical calculation but also in thinking system as well. Japanese abacus have changed the way their study to be more effective and more fun.

We are really appreciate your kindness of abacus donation and hope to cooperate with you again in another time.

Best regards,

(Mr. Surapol Thornee)

Deputy Director

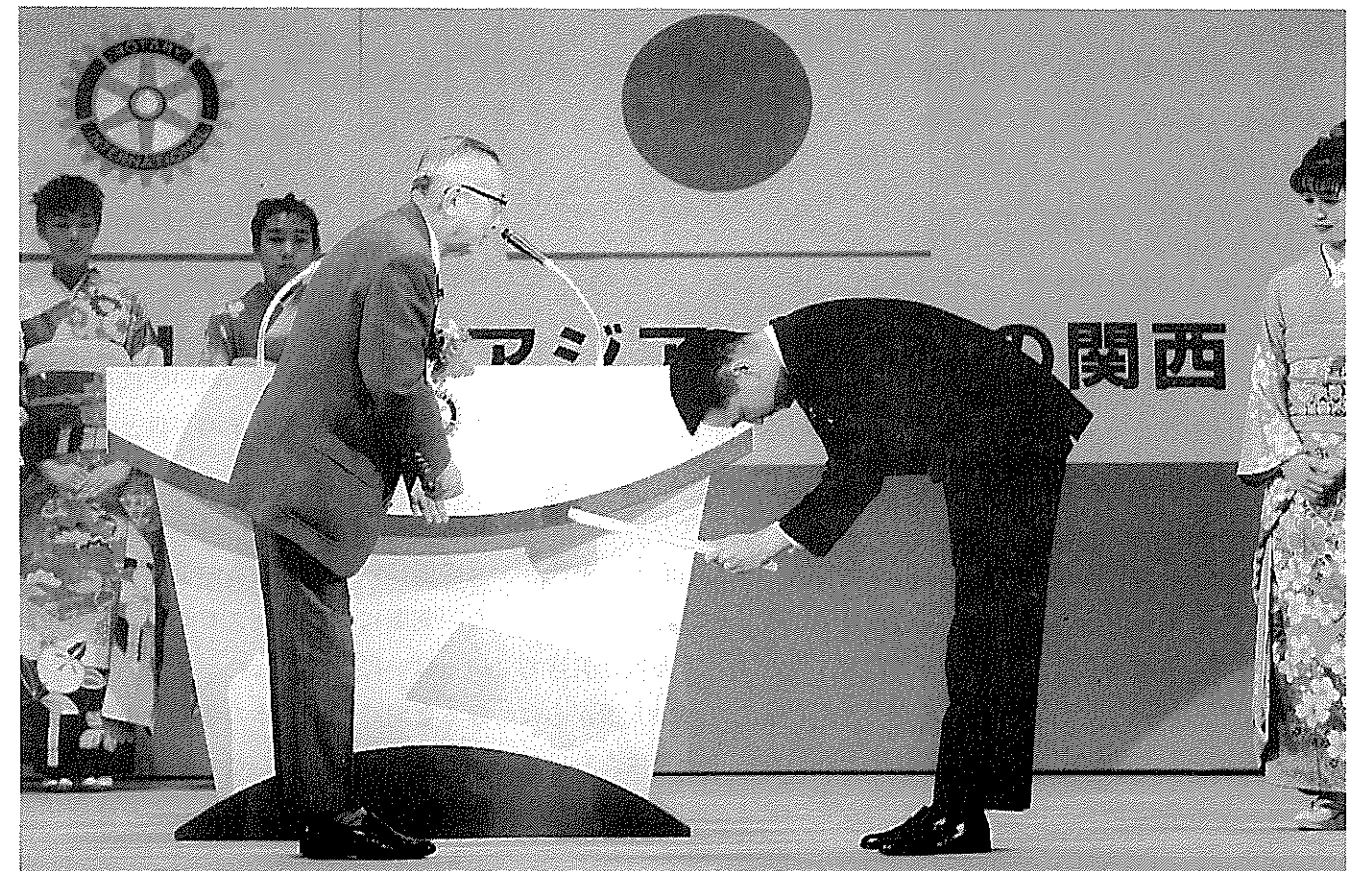
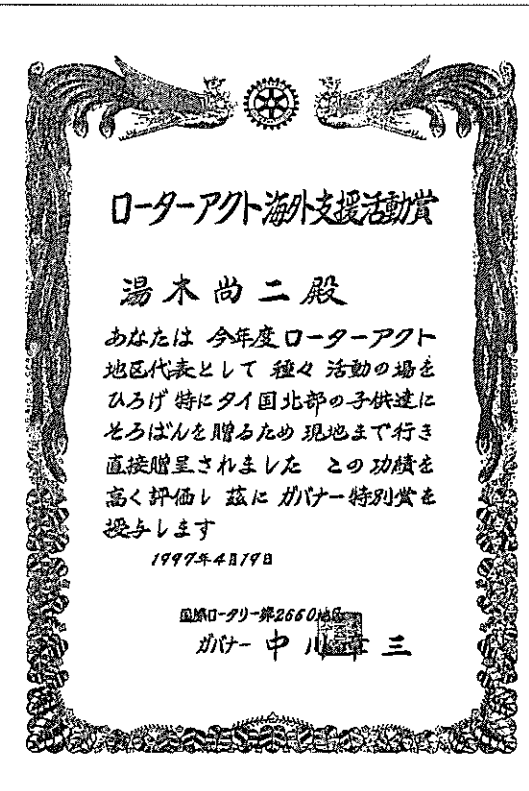
Roi-Et Provincial General Education Office

タイ国ロイエット県教育委員会よりのそろばん別送分の受取書

1996~1997年度 国際ロータリー第2660地区大会にて 海外支援活動賞を受賞

1997年 4月19日 (土)

於 フェスティバルホール



渡航者感想文

川崎 美樹子

バンコク市内から飛行機で1時間。眼下には赤い土の畑が永遠と広がっていました。

コンケン空港から車に乗りひたすら田舎道を進む。牛などの家畜が放し飼いにされていました。(今の日本でもなかなかない光景です。) そろそろ単調な景色を見飽きた頃目的地の小・中学校に到着しました。

車から降りると、子ども達の視線を感じました。校庭から…全ての生徒が私たちのことを見つめていました。(外国からの訪問者は大変珍しいのでしょうか。) 閉ざされた田舎町で育ったためでしょうか、私達が手を振るとにげてしまうほど「恥ずかしがりやさん」の集団でした。

子ども達のそろばん授業見学、踊り、村の人々からの喜びの儀式、記念植樹など短い時間でしたが共に楽しい一時を過ごすことができました。子ども達は大変素直で優しくかったです。私が立ちっぱなしでいると、椅子を運んでくれました。(親の手伝いや兄弟の面倒をすすんで行っているのでしょうか。) 日本に比べると貧しい生活を送っているのですが、家庭では両親の愛情をたくさん受け、厳しく、大切に育てられている様子を感じることができました。(心の豊かさは日本には負けていないのではないのでしょうか。)

聞くところによると私たちの訪問したタイ東北部は国内でも最も貧しい地区であるとのこと。子ども達の将来にはきっと数え切れないほどの困難が待ち受けているはず。決して負けることなく、たくましく成長して欲しいと切実に願います。

「発展途上国への援助の賛否」をしばしば耳にします。正直なところ私自身答えを出すことができません。大変難しい問題であると思います。豊かでも、貧しくても国それぞれの良さがあるのだから他国が介入する必要がないという意見と、豊かな国から貧しい国への援助が当然とする考え方があります。どちらが正しいかは分かりませんが、ありのままの姿を見つめ、時間を共有することが大切なような気がします。必要なのは、心の交流なのではないでしょうか。

今回の訪問は私にとって大変貴重な体験でした。平凡な生活を送っている私にとって刺激的でした。いつまでも忘れることなく、タイの子ども達に負けないように生きてゆこうと思います。

タイ国を訪問して

細尾 知加

今回、タイ国を訪問させていただいて、一番心に残ったことは、子供たちの明るくて純粋な笑顔です。とても澄んだ目をしているのです。最近の日本の子供たちには、あまり見られなくなったような気がします。私たちがいつのまにか忘れてしまった何かをこの子供たちは持っていると思いました。裕福だけれど、いい学校に入ることだけを目指さざるを得ない曇った目をした日本の子供と、貧しいけれど目に輝きのあるタイの子供と、どちらが幸せなのかな、と思わず考えてしまいました。

でも、訪問した東北部は、タイの最貧地方で、子供たちは幼い時から出稼ぎに出され、中には、タイ国で社会問題となっている売春に手を染めざるを得ない子供たちが多く聞き、目の前にいるこの明るい子供たちと、そのようなかなしい現実とがどうしても結びつけることができませんでした。実際にバンコックでその実態を目の当たりにする機会があり、どうしようもなく悲しくて、複雑な気持ちでいっぱいになりました。

心のこもったおもてなしに、タイの人たちのあたたかい人情が心にしみると同時に、タイの悲しい現実に胸がいたんだ、今回の訪問でした。贈ったそろばんが、この子供たちに何らかの役に立てれば、と心から思いました。

いろんな意味で貴重な体験をさせていただいたこの訪問に、ご協力・ご支援くださった方々に心より感謝申し上げます。